

自分で考え、仲間と共によりよく判断し、行動する生徒の育成

上越市立三和中学校

1. 学校の概要

上越市立三和中学校（石野秋広校長、生徒数144人）は、豊かな自然と温かい地域環境に恵まれた上越市三和区にある。素直で明るい生徒、協力的な保護者・地域の方々、活力溢れる教職員集団が、教育目標である「豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、たくましく実践する生徒」の実現に向け、日々努力を続けている。

三和中学校では、特に「未来」と名付けられた総合的な学習の時間に力を入れて取り組んでおり、地域について深く学び、その長所を内外に発信する活動を継続してきた。また、人権教育、同和教育にも力を入れており、区内の小学校と連携した授業実践・交流や講演会などの活動を継続している。



2. N I E実践のねらい

本校では「資質・能力の育成を目指した仲間と共に学び合う授業改善」を主題として職員研修を進めている。主題に迫るため、「知識や技能を転移・リンクさせた思考力、判断力を活性化させる授業改善」と、「協働学習の質的向上を目指す集団力育成」に的を絞って取り組んでいる。この度、N I E実践校の指定を受けたことで、生徒の活動の幅を広げるとともに、内容の深化を図ることができるようになったと考えている。これまで行ってきた活動の中に新聞を使った活動を取り込み、有効に活用していくことを第一に実践を進めている。

授業を始めとする学校の教育活動に新聞を取り入れることで、とかく独り善がりなものになりがちだった生徒同士の意見交換に、客観性が付加されることが期待できる。また、インターネット検索に代表されるようなピンポイントの視点や知識に留まらず、視野を広げ、知識を深めることにもつながると捉えている。

しかし、現代の中学生が新聞に親しんでいるかと言えば、残念ながら答えは「No」である。加えて、インターネットや携帯情報端末の普及を反映して、紙媒体の新聞を購読しない家庭も増えてきているのが現状である。そこで、指定1年目の今年度は、まずは生徒が気軽に新聞に触れることができるようにすること、そして新聞を読む習慣を身に付けることに重点を置いた。また職員にも、それぞれの教科で「まずは新聞を使ってみる」ことに取り組むように働き掛けた。

3. 今年度実践の概要

(1) 新聞開架コーナーの設置 (通年)

①校舎1F 渡り廊下にある「三和中インフォメーションセンター」に、NIE事業で購読している複数の新聞を開架した。一か月ごとに別綴じとして、バックナンバーについても参照しやすいように配慮している。

②生徒や職員が自由に閲覧したり、持ち出したりできるようになっている。授業の導入で用いられたり、全校で行っている朝読書の時間に読まれたりしている。



(2) 新聞記事紹介の取組 (通年)



全学年全クラスで、終学活の中に「新聞記事紹介」を位置付けている。生徒全員が前日までの新聞記事で印象に残ったものを選び、その記事の何が印象的だったのか、何を考えたのかについて、1分程度でスピーチを行う活動である。最初は単に見出しやリード文を読むだけの生徒が多かったが、だんだん最も興味を引かれた記述について掘り下げて発表したり、自分自身の思いや提言を述べたりする生徒が増えてきた。

(3) その他の取組 (適宜)

委員会活動として、「ミニ意見発表会 (新聞投稿欄への応募)」「進路情報記事の紹介」を行った。また、国語科では「新聞記事感想文コンクールへの応募」を奨励している。

(4) NIEに関連する校内研修 (授業公開)

日 時				内 容	NIEアドバイザー	
月	日	曜	時 間		所属	氏名
8	3	月	9:00～11:00	NIE活動の進め方 新聞読み解きの基礎	宮嶋小校長	柳澤 一輝 様
10	21	水	13:40～16:00	校内授業研修 (道徳：3年部)	宮嶋小校長	柳澤 一輝 様
12	9	水	13:40～16:00	校内授業研修 (総合：2年部)	宮嶋小校長	柳澤 一輝 様
2	8	月	13:40～16:35	校内授業研修 (学活：1年部)	宮嶋小校長	柳澤 一輝 様

4. 今年度の校内研修について

以下に、今年度実施した校内研修（授業公開）について大まかに紹介する。

（１）N I E活動の進め方に関する研修（職員対象 令和２年８月３日実施）

N I Eアドバイザーである上越市立宮嶋小学校長の柳澤一輝様を講師にお招きして、N I Eの目的、取組方などについて指導を受けた。この研修を通して、N I E活動を身構えずに行っていくことで生徒にどんなメリットがもたらされるのか、実施する上で指導者に求められることは何か、などについて分かりやすく学ぶことができた。



（２）実践例１「人権について考えよう」（対象学年３年生 令和２年１０月２１日実施）

①指導案

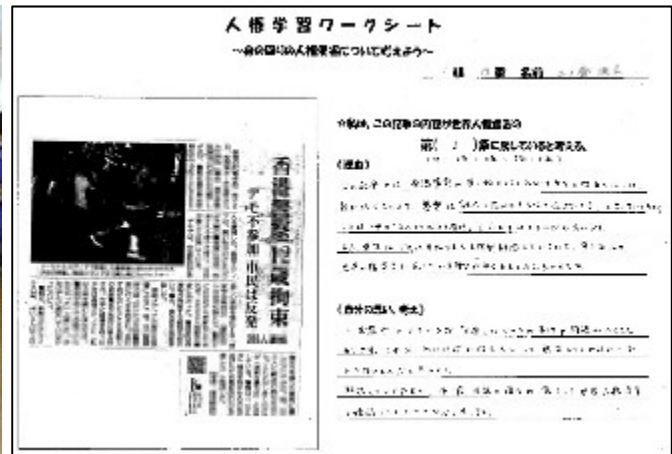
段階	学習内容・学習活動	□指導上の留意点 ☆評価(評価方法)
導入 (3分)	自分が関心をもった人権問題に関する新聞記事を机に出す。	☐ 事前に新聞記事を準備できるように、新聞に目を通すように促したり、校内の新聞を利用したりするように計画的に指導を行う。
展開① (20分)	- 記事の内容の問題点について、30条からなる「世界人権宣言」のどの条項に関わる問題なのかを考える。 - 自分が選んだ記事に対し、どこが問題点なのか、その問題点に対して自分がどのような考えをもつかという視点でレポートにまとめる。	☐ 「世界人権宣言」のどの条項にあてはまるか自分で判断できない生徒に、適宜助言を行う。
展開② (22分)	自分のレポートを他の人に説明しよう。他の人のレポートから人権に対する考えを深めよう。 - 自分の選んだ記事や自分の書いたレポートを班で説明し合う。 - 説明後、聞いている生徒は「自分と共通しているところ」「自分と違う視点」を明確にして、質問や感想を述べる。（班員の構成を変えて、2セット行う。）	☐ 班活動の仕方を提示する。 ☐ 発表し合うだけではなく、聞いている生徒が共通点や相違点を見つけられるよう支援する。 ☆自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。（話し合い）
振り返り (5分)	自分のレポートや他の人のレポートから、人権について感じたこと、考えたことを記述する。	☆人権に関する記事の内容の問題点について、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。（レポート）

②本実践の概要

- ・本実践後に行う「新潟水俣病」の学習がより深まるように、平易な言葉で書かれた「世界人権宣言」を提示する。
- ・最近の新聞から「差別」「人権問題」に関わると考えられる記事をピックアップする。
- ・人権に対する意識を高めるために、人権宣言のどの条項に抵触するのかをまとめ、発表し合い、感想を述べ合う。



自分が見つけた記事について説明する生徒



記事についてまとめたワークシート

世界人権宣言を精読した上で新聞記事を探すという活動を通して、人権、差別問題は自分の眼前で起きていることだという意識をもてるようになったと感じている。また、本実践を契機として、仲間と一緒に廊下で新聞記事を熱心に探したり、相談したりする姿も見られるようになった。さらに、生徒の感想には「これからも新聞を読んでいきたい」というものや「大きな記事になる『事』は、身の回りの小さな事からスタートするものだ」というようなものもあり、新聞に親しむという目的も果たせたと考える。

(3) 実践例2「新聞から職業に近づこう」(対象学年2年生 令和2年12月9日実施)

①指導案

段階	学習内容・学習活動	□指導上の留意点 ☆評価(評価方法)
導入 (3分)	・今日のねらいを確認する。 工夫して発表し、他班の考えを聞き、自分の生き方や働き方について考えを深めよう。 ・発表の仕方の確認をして、発表に備える。 ☆各班、班長が進行する。 ①記事ごとに班員が発表を行う。 ②発表班以外はその班の発表を聞き、評価シートに評価を記入する。 ③すべての記事を発表後、班長が班のまとめを発表する。 ④発表終了後、評価シートの未記入箇所を記入する。	□ねらいを掲示する。 □評価シートを配付する。 □発表の見通しをもてるよう、発表の流れと進め方をまとめて掲示する。

展開 (42分)	・1班から順番に発表する。(以下、内容例) 1班6分間発表、評価シートに記入1分間 - C1:「現代社会の工夫」 ・内陸県でも海水魚を(水産業) ・スポーツと故障(スポーツ) ・厳しいドコモはどうするか(商業) ・オンラインの新たな活用法(教育) - C2:「過ごしやすい未来のために」 ・各県に広がる一等米(農業) ・教育現場の基準について(教育) ・患者さんを安心させる医療の形(医療) ・迅速な対応が求められる社会(IT) ・変化するエネルギー源(工業)	□全体の司会進行をする。 □評価シートの記述の様子を見取りながら司会を進行する。 ☆班で工夫して発表することができる。 (発表の様子、評価シート)
まとめ (5分)	・他班から評価シートを受け取り、内容を確認し、振り返りシートへの記入をする。 ・数名、発表する。(以下、発表例) - C1:自分は農業の観点から、食の安全が大切だと考えた。多くの人も自分と同じ考えをもったようなので、職業に就く際は安全であることを重要視したい。 - C2:自分は商業の観点から、利益を出すことが大切だと考えた。しかし、利益を低下させても顧客を獲得することも重要ではないかという意見を聞いて、どちらかに偏るのではなく、利益とサービスのバランスが大切だと考えるようになった。	□振り返りシートを配付する。 ☆評価シートの記述や、他班の発表に触れて、自分の「生き方」や「働き方」などの考えを深めることができる。 (振り返りシート)

②本実践の概要

- ・職種を決めて収集した新聞記事から学んだこと、気付いたことについて発表し合う。
- ・同じ職種を選んだ班、異なる職種を選んだ班の発表を聞いたり、感想を共有したりすることを通して、それぞれの職種の特性などについてより深く知るとともに、今後のキャリア学習の一助とすることをねらう。



記事に取り上げられた職業について発表する生徒



発表の感想やアドバイスを交換する生徒

今年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、夏休み中の職場体験学習が中止となった。そのため、本実践は2年生にとって職業について考える上でも貴重な機会となった。生徒は「興味のある職種の記事」を「自分の生活に生かすならば」という視点から精力的に探し、工夫を凝らして掲示物を作成していた。活動に没頭する生徒の姿を通して、教材としての新聞の良さや可能性を垣間見た思いである。

ある女子生徒の感想を引用する。

私は、日々人のために働く人たちについて、あまり関心をもっていませんでした。ですが、今回の学習を通して、自分達の目に見えない苦労や、状況に合わせた対応などを行っていることが分かり、興味や関心をもつことができました。私も人のために頑張れることを見つけていきたいです。



綿密な取材に基づいて構成された新聞記事を読むことで、これまで知らなかったこと、考えもしなかったことに気付くことができた「手応え」を実感しているのが伝わってきた。

(3) 本原稿執筆段階で、まだ1年生の実践は行っていないが、概要のみ簡単に紹介する。

- ・各新聞の投書欄から、ディベートのテーマとして活用できるものを提示する。
- ・それぞれのテーマについて、肯定派、否定派に分かれてマイクロディベートを行う。但し、必ず新聞記事（Web新聞も可）を根拠とする。
- ・肯定派、否定派が活用した新聞記事を再読し、異なる切り口があることを確認する。

目新しさはない活動であるが、NIE活動の入り口にいる1年生にとっては、必要且つ有効なものになると考えている。

5. 成果と課題

間もなく、NIE指定の1年次が終了する。前述してきたような取組を通じて、生徒が少しずつ新聞を手取るようになってきた。また、記事の探し方や、内容の読み取り方も上達しているように感じられる。何より、新聞を効果的に活用するために、職員も熱心に新聞記事に目を通すようになってきたのは大きな収穫である。

2年次に向けての課題としては次のようなものが挙げられる。

①新聞開架コーナーを拡充する。

図書委員会などとタイアップして、POPを作成したり、目玉記事を紹介したりして、存在感と利便性を一層高めていく。

②多くの教科、領域で実践を積み重ねる。

新聞と親和性が高いと思われる教科から順次取組を進めてきたが、活用場面や方法に決まりはない。臆することなく新聞を活用する授業を実践していけるよう働き掛ける。

③紙媒体の新聞だけでなく、Web新聞の活用も進める。

タブレット端末を用いて新聞記事を閲覧する機会を増やし、より新聞に親しんでいく。

上記三点を念頭に置き、2年次の実践を進めていきたいと考えている。（岡村 範雄）